

# 2023年度全国大学病院輸血技師研究会

2023年 10月 25日（水） 15：00～17：00

長崎ブリックホール+ Web 開催

当番校

佐賀大学医学部附属病院

## 目次

1. 会場までの交通アクセス .....	3
2. 会場案内.....	4
3. WEB での技師研究会への参加方法.....	5
4. 2023 年度全国大学病院輸血技師研究会《次第》 .....	8
5. 2022 年度全国大学病院輸血技師研究会議事録.....	10
6. 全国大学病院輸血技師研究会 規約改定[案].....	14
7. 全国大学病院輸血技師研究会 調査報告.....	16
8. 全国大学病院輸血技師研究会 施設紹介.....	21
9. メーカー講演.....	22
10. 全国大学病院輸血技師研究会役員名簿 .....	25
11. 全国大学病院輸血技師研究会ブロック別施設一覧 .....	27
12. 技師研究会メーリングリスト登録（申込・削除）申請書 .....	28
13. 2023 年度全国大学病院輸血技師研究会出席者名簿.....	29
14. 平成 13 年度（2001 年度）以降の当番校リスト .....	31

# 会場までの交通アクセス

長崎ブリックホール

〒852-8104 長崎県長崎市茂里町 2-38

TEL : 095-842-2002

<https://www.brickhall.jp/access/>

JR 浦上駅近く



## 長崎空港より

### バスご利用の場合

- 長崎県営バス(長崎駅行き 長崎バイパス・浦上経由:浦上駅前下車 乗車時間約60分)  
※長崎方面のバスは出島道路経由・長崎バイパス経由がありますので、ご注意ください。  
※時刻表など詳細は長崎県営バスホームページの空港バス(空港⇄長崎)よりご確認ください。
- 長崎バス(長崎空港発 ココウォーク茂里町下車 乗車時間約50分)  
※時刻表など詳細は長崎バスホームページの長崎空港線エアポートライナーよりご確認ください。

### タクシーご利用の場合

長崎自動車道利用時約50分

## 福岡(博多)よりご利用時

特急「リレーかもめ」「みどり」で武雄乗換、西九州新幹線「かもめ」に乗車  
長崎駅より「浦上駅」下車 徒歩5分

# 会場案内



## WEB での技師研究会への参加方法

1. 技師研究会は、現地開催を予定していますが、併せて、Zoom ミーティングを用いたライブ配信をいたします。現地にお越しいただけない方には Zoom ミーティングを用いてライブ配信いたします。また、後述する「視聴者」と「発表者・投票者」の 2 タイプの参加方法に分かれます。同一の参加用 URL をご案内しますので、それぞれの参加方法について各 2 タイプの案内をご確認ください。開催中の投票は、あらかじめ施設内で決定した事務局に登録した 1 名の投票者は、必ず「発表者・投票者」として参加してください。
2. ☆各会議の Zoom 参加 URL は、本会議の 1 週間前にメールにて送付いたします。  
URL が届かない場合は、事務局へご連絡ください：[jstmct30@med-gakkai.org](mailto:jstmct30@med-gakkai.org)  
※通信障害時の連絡先  
○ 技師研究会 当日の緊急連絡先：080-6270-6474（10 月 25 日のみ利用可）  
※通信障害以外の連絡は下記メール宛てにご連絡をお願いいたします。  
[yuketsu2023@ml.cc.saga-u.ac.jp](mailto:yuketsu2023@ml.cc.saga-u.ac.jp)（2023 年度全国大学病院輸血部会議事務局）
3. 技師研究会前に、必ずミーティング用 Zoom クライアント最新版をインストールしてください。  
(ア)Zoom 最新版であるか確認する方法 <https://ncdc.co.jp/columns/6612/>  
(イ)最新版ダウンロードはこちらから <https://zoom.us/download>  
※ 最新版でない場合、通信トラブルなどにより一部視聴困難になる場合があります。  
※ Zoom の URL を、他の方に転送したり複数の PC やスマートフォン等からアクセスしたりすることのないようお願いいたします。
4. 会議への入室時間は本会議、技師研究会それぞれ開始時間の 20 分前からです。  
長崎ブリックホール（国際会議場） 技師研究会開始時間：10 月 25 日 15 時 00 分

## 視聴者へのご案内

1. 「視聴者」はマイクとビデオは**必ず**ミュートにしてください。視聴者は投票権を有しません。  
あらかじめ事務局に登録され投票を行う方は、次章の「発表者・投票者」の項目へお進みください。
2. 入室方法
  - (ア)事務局から事前に送付される 2.☆の Zoom ミーティング URL (前述) にアクセスしてください。
  - (イ)ブラウザの上部に開くウィンドウ内の「Zoom Meeting を開く」ボタンを押すと、Zoom アプリが起動します。
  - (ウ)画面中央にポップアップウィンドウが開きます。「コンピュータ オーディオに参加する」をクリックすると視聴が開始されます。視聴開始後に、**必ず**画面下の「ミュート」／「ビデオの停止」をオフ（赤斜線）状態にしてください。
  - (エ)画面上で右クリックし、「名前の変更」より「氏名（施設名）」をご入力ください。  
(例：輸血 太郎（全国大学病院輸血部会議）)

## 発表者・投票者へのご案内

1. 発表者・投票者（施設代表者）
  - (ア)「発表者」は、マイクとビデオが使用できます。会議を視聴すること、「マイク」による質問ができます。
  - (イ) 1施設に1票の投票者を含みます。あらかじめ施設内で投票者1名を決定しておいてください。投票の際には、投票者のみが投票を行ってください。
2. 入室方法
  - (ア)事務局から事前に送付される 2.☆の Zoom ミーティング URL (前述) にアクセスして下さい。
  - (イ)ブラウザの上部に開くウィンドウ内の「Zoom Meeting を開く」ボタンを押すと、Zoom アプリが起動します。
  - (ウ)画面中央にポップアップウィンドウが開きます。「コンピュータ オーディオに参加する」をクリックすると視聴が開始されます。視聴開始後に、**必ず**画面左下の「ミュート」／「ビデオの停止」をオフ（赤斜線）状態にしてください。
  - (エ)画面上で右クリックし、「名前の変更」より「★氏名（施設名）」と頭に★を付けてご入力ください。（例：★輸血 太郎（全国大学病院輸血部会議））
  - (オ)ビデオは常時 ON（顔出し）をお願いします。

### 3. 参加環境

- (ア) 生活雑音のない静かな環境でご参加ください。
- (イ) LAN ケーブル接続を推奨します。Wi-Fi 接続は十分な強度を確認してください。
- (ウ) 一つの部屋で複数の PC から参加する場合、近くの他の参加者の PC のスピーカー音をマイクが拾うとハウリングが起きます。他の参加者にはイヤホンまたはヘッドセットを使用し音が漏れないようにしてもらってください。
- (エ) 稀なケースとは思いますが、ストリーミングサイト等から動画を受信しながら再配信すると、PC とネットワークの両負担となり、円滑な配信が困難になることがあります。LAN ケーブル接続した PC 内においた動画ファイルを再生し配信してください。また、非力な PC は避け高性能 PC を用いてください。

### 4. 発表・発言の場合

発表・発言時は、ミュートを解除し、「質問があります」とご発言ください。議長からの許諾後に、施設名と名前を名乗ってから発言してください。資料あるいはスライドを提示する際は、Zoom の画面共有機能を用いてください。発表・発言後は**必ず**ミュートにしてください。

# 2023 年度全国大学病院輸血技師研究会 《次第》

日時：2023 年 10 月 25 日（木）15：00～17：00 @長崎ブリックホール + Zoom会議

## 開会の挨拶

(15：00～15：05)

- 1) 技師研究会代表挨拶 東京医科歯科大学病院 大友 直樹
- 2) 当番校技師代表挨拶 佐賀大学医学部附属病院 山田 麻里江

## 1. 協議事項

(15：05～15：20)

- 1) 2022年度議事録について
- 2) 規約改定について
- 3) 2024年度役員改選について
- 4) 会計報告
- 5) 事業報告・計画案

## 2. 報告事項

(15：20～16：10)

- 1) 業務量アンケート調査  
藤田医科大学病院 松浦 秀哲  
15:20～15:30
- 2) 「タスクシフト・シェアに関する業務」アンケート調査  
東邦大学医療センター大森病院 奥田 誠  
15:30～15:40
- 3) 「輸血関連情報カードの運用状況」アンケート調査  
筑波大学附属病院 新井 裕介  
15:40～15:50
- 4) 「Rh（その他の因子）血液型検査の実施と算定状況」アンケート調査  
名古屋市立大学病院 南里 隆憲  
15:50～16:00
- 5) 「患者ID等を用いて別患者との情報紐付けを行う機能」アンケート調査  
東邦大学医療センター大森病院 齋藤 光平  
16:00～16:10

## 3. 施設紹介

(16：10～16：25)

東京医科歯科大学病院 相川 佳子



4. メーカー講演 (16 : 25～16 : 55)

「血液粘弾性検査（装置の特徴及び各パラメータと輸血の関係）」

1) トロンボエラストグラフィアナライザーTEG6s製品特徴について

ヘモネティクスジャパン合同会社 横田 拓也

16:25～16:35

2) ROTEMシグマ 血液凝固分析装置～輸血部がリードするPBMの可能性～

アイ・エル・ジャパン株式会社 横山 みどり

16:35～16:45

3) Quantra®血液粘弾性分析装置のご紹介

平和物産株式会社 室伏 和博

16:45～16:55

5. その他周知事項 (16 : 55～17 : 00)

次期当番校の挨拶

埼玉医科大学国際医療センター 棚澤 敬志

# 2022 年度全国大学病院輸血部会議 技師研究会 議事録

日時：2022 年 10 月 27 日（木）15：00～17：00 @新宿住友ホール + Zoom 会議

作成：2022 年度当番校 尾上和夫（東京大学医科学研究所附属病院）

出席：103 大学 欠席：0 大学（詳細は別紙）

## 記

### 1. 開会の挨拶

#### 1) 技師研究会代表挨拶

技師研究会代表 東京医科歯科大学 大友氏より開会の挨拶があった。

#### 2) 当番校挨拶

東京大学医科学研究所附属病院 尾上氏より挨拶があった。

恒例に従い、開催校の東京大学医科学研究所附属病院 尾上氏が議長を務めた。

### 2. 協議事項

#### 1) 2021 年度技師研究会議事録について

熊本大学福吉氏より、昨年当番校の名古屋大学 加藤氏が作成した議事録配布資料の要旨が説明され、2021 年度技師研究会議事録として承認を得た。

#### 2) 規約改定について

技師研究会代表 東京医科歯科大学 大友氏より副代表の慶応義塾大学 上村氏の任期の途中退職後、副代表1名が空席のため補欠による選任された役員の任期は、前任者の残任期とする事項の報告があり承認された。

#### 3) 副代表の選任について

副代表に福島県立医科大学の川畑氏が選任された。私立大学担当役員に東京医科大学の嘉成氏が選任された。また、東京ブロック代表として慶應義塾大学の鳥海氏が選任され、相談役担当に旭川医科大学の友田氏が選任された。以上4名の選任について承認された。

#### 4) 会計報告及び会計の取り扱いについて

会計担当役員東京大学の名倉氏より 2021 年度(令和3年度)の会計報告がなされた。

令和3年度全国大学病院輸血部会議において、会計を技師研究会と一本化を行なった。

昨年、予算10万円を申請し活動したが、実際の活動費は全国大学病院輸血部会議から直接支払いがされている。技師研究会からの活動費の支払いは無く、決算額は0円。そのため収入、支出総額は無しのため差引額は0となることが報告された。会計監査担当の東京大学医科学研究所 尾上氏が会計監査を行い、問題ないことを報告し承認された。

また、今後の会計は直接大学病院輸血部会議会計から支払いがおこなわれることから、活動費については大学病院輸血部会議に申請し承認されたのち支払いとなった。そのため来年度より予算申請をおこなわないこととなった。

### 3. 報告事項

#### 1) 業務量アンケート調査報告

藤田医科大学 松浦氏より本会議前に業務量アンケートの結果について、資料に沿って報告がされた。103 施設中 103 施設から得た回答を集計（回収率 100%）した。今回参加した病院の総病床数は 8 万 1,333 床である。輸血部門の職員について検査技師の内訳は、技師長が 22 名、副技師長が 45 名、主任 138 名、技師 545 名、非常勤が 32 名、パート 22 名で、全国で 804 名の臨床検査技師が業務を担当し、認定技師数は 334 名、細胞治療認定管理師数は 248 名である。

輸血学教育は医学科の教員が講義を担当している施設は 96%、小グループでは 80%の施設で教員が担当している調査結果が報告された。

不規則抗体検査算定は D011 と K920 の 2 つで算定ができ D011 は、輸血歴または妊娠歴がある患者に対して当該手術を実施した場合に算定可能。K920 は、輸血量に対する加算として算定ができ、検査回数に関係無く 1 ヶ月に 197 点が取得できる。D011 で算定できている割合は 22.2%、K920 は 15.6%。今後、算定率が上げられる新しい枠組みで、輸血検査を診療報酬として評価を検討していく報告がされた。また、アンケート調査結果はパスワード付きのファイルとしてダウンロードを可能とすることが報告された。（パスワードは、研究会会場にて公表）

#### 2) 「大学病院における輸血管理料の取得状況」アンケート調査

東海大学 杉本氏より「大学病院における輸血管理料の取得状況」アンケート調査結果について 81 施設からの回答報告、施設状況は 500 床以上の病床数が多く輸血管理料取得も多い傾向があった。大学病院群で輸血管理料の取得状況アンケート調査では全ての施設（Ⅰ：65 施設、Ⅱ：16 施設）が取得され、令和 3 年度血液製剤使用実態調査未取得は 56.75%であると報告された。

輸血適正使用加算を取得している施設は 45.7%、取得していないが 44/81 施設で 54.3%。取得できない理由は FFP/RBC 比、ALB/RBC 比、両方とも要件を満たしていないが 45.5%。その主な理由は、心臓血管外科手術(29 施設)、血漿交換(27 施設)、肝臓移植、救命等の大量出血、同種クリオ等で使用量が多い。また、施設によって移植の種類が増えていること。肝硬変患者への大量アルブミン使用を除外すると、適正使用加算が取得可能となる施設が 6/30 施設であると報告された。

貯血式自己血輸血管理体制加算 は 40/81 施設で 49.4%が取得(令和 3 年度血液製剤使用実態調査取得:7.43%)。貯血式自己血管理体制加算の基準を満たしていない項目は、関係学会から示された指針の要件を満たし、その旨が登録されている常勤の医師及び看護師が 1 名以上配置されていることが報告された。

#### 3) 多施設共同研究報告：輸血前の患者照合に関する実態調査

浜松医科大学の山田氏より、多施設共同研究報告から患者照合システムの普及と活用状況を把握し大学病院におけるより安全な輸血治療を推進する資料とするため、アンケート調査を実施し、26 施設から協力を得た。患者照合システムは輸血検査用検体の採血前は 15 施設（58%）、輸血実施前は 25 施設（96%）が導入していたと報告された。

インシデント及びアクシデントの発生時は、手術室や救急外来など、緊急採血や輸血が必要とされる部署。採血や輸血を行う頻度が低い時間帯等において、患者照合システムが不備な施設で発生している。患者誤認に関連するインシデントやアクシデントを防止するため、輸血部門が

積極的に介入し、患者照合システムの有用性は臨床側にも理解が必要なため、患者照合に関する勉強会や実技講習会を実施していく方針が報告された。

### 3. 特別講演 「分子標的治療薬の投与情報の収集の工夫について」

近畿大学の井手氏より、「分子標的治療薬の投与情報の収集の工夫について」講演された。抗 CD38 抗体に代表される分子標的治療薬は輸血検査に影響を与え、薬剤投与された患者で輸血検査を行う場合は DTT 処理対応をすることで検査は可能である。

輸血検査を行う上で患者情報の収集は必須で、検査者が自ら情報を収集することが大切。症例を把握するため病院全体のシステムとして投与情報を共有する体制を構築することが重要。当院は投与情報を収集する取り組みとして、薬剤部と輸血・細胞治療センターでワーキングチームを立ち上げ、薬剤の投薬情報の入手および輸血部門への円滑な情報提供を目的として3つの対策を取った。①当該薬剤を処方した医師に対して輸血部門への連絡を促すアラートを電子カルテに表示する。②当該薬剤処方または他院での投薬情報を薬剤部が入手した場合は輸血部門へ連絡をする。③輸血部門検査技師は投与情報カードを作成し、患者に説明して渡す。

薬剤部と輸血部門が連携した情報共有体制を構築することにより、投与情報の収集がより確実となった。輸血検査技師が投薬情報カードを作成することから、他院への情報提供体制も構築できた。薬剤部は院内の投薬情報を全て把握し、当該薬剤の投薬情報についても鋭敏に認識できる部署であるため、今後は血液内科領域以外で輸血検査に影響する薬剤が使用されても、輸血部門と薬剤部が連携することで、院内の情報共有が円滑になると講演された。

### 4. 施設紹介 輸血部門技師の移植・細胞治療関連業務紹介

兵庫医科大学 池本氏より輸血部門技師の移植・細胞治療関連業務紹介が報告された。当施設では、アフエレーシス・細胞調製・品質確認検査・細胞保管・細胞出庫・製品受領と保管・細胞や製品投与の各工程は、輸血部門の臨床検査技師が一元管理を行なっている。2022年4月～9月の半年間の移植・細胞治療業務量は、細胞採取（アフエレーシスのみ）26件（ブレヤンジ®6件、アベクマ®6件、同種末梢血幹細胞12件、顆粒球2件）、細胞採取および凍結12件（自家末梢血幹細胞9件、キムリア®3件）、骨髄移植0件（バンク採取2件）、臍帯血移植7件、細胞解凍・投与21件（キムリア®4件、ブレヤンジ®3件、アベクマ®4件、自家末梢血幹細胞10件）、テムセル®6件（投与56回）、コラテジェン®2件（4回）の件数が報告された。キムリア®導入を契機に、作業環境（採血室/検査室/細胞調製室/細胞保管室）の整備や、文書管理体制ならびに移植・細胞治療業務全体をカバーする新たな品質管理体制を構築。既存の体制を最大限活用し、現場に即した効率的な運用を目指す事で、スタッフの負担を最小限に抑え細胞治療支援の拡充が可能となった。当院の業務紹介が、他施設の体制作りの一案として参考になれば良いと報告された。

### 5. その他周知事項

技師研究会アーカイブについて、技師研究会代表 東京医科歯科大学 大友氏より、平成13年度第11回から今年度まで、各年度に当番校が作成した技師研究会資料を、1つにまとめる提案が告知された。当番校リストにアップされた大学の協力を得て、グーグルドライブやストレージに貯

めて行く提案がされた。また、資料収集についてはこれから検討を始め、決まったらメーリングリストを通じて皆様に通知をして、技師研究会のアーカイブ作成の協力が周知された。

#### 次期当番校の挨拶

次期当番校の挨拶 佐賀大学医学部附属病院の山田技師が挨拶を行い、技師研究会を10月25日会場は長崎ブリックホール。輸血部会議は26日、出島メッセ長崎で開催予定の告知がされた。

## 全国大学病院輸血技師研究会 規約 (202310 改定案)

平成 18 (2006 年) 年 10 月 3 日 制定  
2020 年 10 月 22 日 改定  
2022 年 10 月 27 日 改定  
2023 年 10 月 25 日 改定

### 〈名 称〉

第 1 条 本会の名称を「全国大学病院輸血技師研究会」とする。

### 〈目 的〉

第 2 条 本会は全国大学病院輸血部会議（以下輸血部会議）の下部組織として、輸血及び細胞治療に関する業務を安全かつ円滑に進めるために、相互の交流を図り業務の向上に役立てると共に調査及び研究を行い、輸血医療及び細胞治療に資することを目的とする。

### 〈組 織〉

第 3 条 本会は、全国の国立、公立、私立の大学病院（分院及び医学部附属病院を含む、以下大学病院という）の輸血細胞治療部門に属する臨床検査技師により構成する。

### 〈活動内容〉

第 4 条 本会の目的を達成するため以下の活動を行う。

- (1) 大学病院輸血細胞治療部門の業務に関する調査及び研究
- (2) 血液製剤に関する調査情報収集及び研究
- (3) 細胞治療関連業務に関する調査情報収集及び研究
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な活動

### 〈役 員〉

第 5 条 本会に以下の役員を置く。

- (1) 代表及び副代表
  - (2) ブロック代表
  - (3) その他の必要な役員
- 2 役員は研究会総会で選任する。
  - 3 役員任期は 1 期 2 年とし再任を妨げない。
  - 4 補欠により選任された役員任期は、前任者の残任任期とする。

### 〈研究会総会〉

第 6 条 本会の目的達成のため年 1 回の輸血部会議に合わせて研究会総会を開催する。役員はその年度の当番病院（輸血部会議主催病院）と密接な連絡をとりながら、研究会総会を主催する。

2 研究会総会は出席者の中から議長を選出し次に掲げる事項を協議する。

- (1) 活動計画、活動報告に関する事項
- (2) 会計収支に関する事項
- (3) 役員の選任及び解任に関する事項
- (4) 規約等の改廃に関する事項
- (5) その他本会の活動に関する事項

#### 〈ワーキンググループ等〉

第7条 本会の目的のために必要と認めたワーキンググループ等を別に設置することができる。ワーキンググループ等の内規は別に定める。

#### 〈事務局〉

第8条 本会の運営を円滑にするため事務局を設ける。

#### 〈委任〉

第9条 この規約に定めるもののほか必要な事項は、代表が別に定める。

#### 〈その他〉

第10条 この規約の改廃は、研究会総会の議を経るものとする。

#### 付則

この規約は、平成18年（2006年）10月3日から施行する。

#### 付則（2020年10月22日改定）

- 1 この規約は、2020年11月1日から施行する。
- 2 役員の任期は選出された総会の翌月から始まり翌々年の総会開催月までとする。ただし施行日に役員であった者の任期は翌年の総会開催月までとする。

#### 付則（2022年10月27日改定）

この規約は、改定日から適用する。

#### 付則（2023年10月25日改定）

- 1 役員の任期を4月から翌々年の3月までとする。ただし施行日に役員であった者の任期は2024年3月までとする。
- 2 この規約は、改定日から適用する。

報告事項 1.

## 輸血業務量アンケート集計報告

藤田医科大学病院 輸血部

松浦 秀哲

別紙資料により報告いたします。



## 報告事項 2.

# タスクシフト/シェアに関するアンケート集計

東邦大学医療センター大森病院 輸血部

奥田 誠

各医療職種は、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進する観点から、医師の働き方改革を目的にそれぞれの医療関係職種の専門性を活かすため、タスクシフト/シェアを推進し業務範囲の拡大等が検討された。

臨床検査技師は、令和3（2021）年10月1日からの法改正施行により、新たに10の行為が追加された。輸血細胞治療領域では、成分採血装置の操作、採血のための静脈路確保、抜針、止血を行う行為が追加された。また、“医師の働き方改革を進めるためのタスクシフト/シェアの推進に関する検討会”では、旧制度下でも14に及ぶ行為の業務を臨床検査技師が担うことで、医師の負担軽減に繋がるとし、現場での実践を推進していく必要があるとしている。この度、各地域の先駆的な立場の大学病院を対象に、タスクシフト/シェアについての進捗状況とその課題についてアンケートを行うことにした。

### アンケート対象

アンケートは、全国大学輸血部会議 技師研究会所属の施設：104施設を対象にした。

アンケート方法は、Google Form を利用し回答を回収した。

アンケートの期間は、2023年8月1日～20日とした。

アンケートの質問数は35問、回収率は65施設（62.5%）であった。

### アンケート集計結果の概要

- ・成分採血に関する業務については、法改正以降、実施施設が微増している。
- ・患者への検査結果説明については、30%近くの施設が実施および実施計画を行っている。
- ・輸血の同意書取得の補助行為は、旧制度上でも実施可能であるが、責任の所在等の問題がある、人的な余裕がないとして進んでいない。
- ・患者副反応観察についても臨床検査技師の業務範囲、人員の問題から困難であると判断している施設が多い。
- ・多職種連携業務については、カンファレンスなど積極的な取り組みが伺える。
- ・救命センターや手術室での活動については、その必要性について今後の展開に期待したい。
- ・再生医療に関しては、医療機関の取り組みに左右されるが、概ね多くの施設が参入している。
- ・タスクシフトの問題点は、人員の確保、資格法制上の問題などの障壁がある。
- ・業務の効率化並びに、実施可能な業務を行うにあたり、他職種との連携が必要。
- ・厚生労働大臣指定講習会の履修率が上がらない（2023年6月現在、日臨技会員の約20%が履修）。背景にコロナ禍における会場の人数制限や会場の確保問題などがあった。

### タスクシフト/シェアを実施するにあたり

タスクシフト/シェアを実施するにあたり、部署管理者の意識改革・啓発や医療機関職員の知識・技能の習得、他職種との相互理解・協力、日常業務の効率化を図り、人的余力の確保が必要である。

### 報告事項 3.

## 「輸血関連情報カードの運用状況」アンケート調査

筑波大学附属病院 輸血部

新井 裕介

輸血関連情報カードは効果的な輸血療法の実施のために「輸血の実施に関する指針」や「赤血球型検査ガイドライン」で発行が推奨されている。カード発行においては2017年に日本輸血・細胞治療学会より「輸血関連情報カード発行アプリ」が公開され、発行を検討する施設への後押しとなっている。

輸血関連情報カードの運用方法は各施設に任されており、カードへの掲載内容、発行の取り決めだけでなく、受け取り後の流れ、カード情報に関する取り決めも様々である。今後、発行施設の増加と共に問題の発生も多くなると予想され、まずはカードの運用状況把握と発行・受取双方の課題を共有することを目的にアンケート調査を実施させていただくことになった。施設における受け取り後も含めた運用方法の取り決め、改善の一助になると幸いである。

## 「Rh(その他の因子)血液型検査の実施と算定状況調査」報告

名古屋市立大学病院 診療技術部 臨床検査技術科

南里 隆憲

現在、赤血球ガイドライン改訂4版では、不規則抗体の同定の項に、抗体の特異性の決定においては、抗体試薬を用いて患者の血液型抗原の有無を確認する必要があるとされていることから、各施設で抗体試薬を使用し、Rh(その他の因子)をはじめ患者血液型抗原検査を実施されていることと認識している。Rh(その他の因子)血液型検査は輸血検査に関連する診療報酬として算定可能となっているが、検査の性質上、事前オーダーではなく、追加検査として実施されることになるため、電子カルテ、輸血検査システム、記録用紙を用いた検査結果報告や患者情報登録などオーダーを含めた運用は各施設で異なることが推測される。

その他、抗体試薬を用いた検査として赤血球製剤の抗原陰性血の確認、抗CD38抗体投与患者におけるDTT処理赤血球(陽性対照および陰性対照)の精度管理として利用されている。

今回、各施設で抗体試薬を用いた検査に関連する運用や算定などの現状を把握し、情報共有を目的に本調査を実施した。

本調査結果が、各施設の運用の参考や、不規則抗体検査の保険点数適正化や算定向上につながれば幸いである。

## 報告事項 5.

# 「患者 ID 等を用いて別患者との情報紐付けを行う機能」

## アンケート調査

東邦大学医療センター大森病院 輸血部

齋藤 光平

### アンケートの目的と背景:

本アンケートの目的は、輸血療法の安全性と効率化を向上するために、輸血部門管理システムでの患者情報の紐付け機能に関する意識とそのニーズを明らかにすることである。従来の輸血部門管理システムでは、新生児における母親からの移行抗体情報や、臓器移植後の血液型変遷など、情報の把握が困難である。日本輸血・細胞治療学会マスタ標準化作業部会はこの問題に対し、「患者ID等を用いて別患者との情報紐付けを行う機能」（以下、患者リンク機能）の必要性に関するアンケートを実施した。

### 患者リンク機能について:

患者リンク機能は、「患者ID等を用いて別患者との情報紐付けを行う機能」を指す。この機能により、輸血関連検査において患者情報への円滑で正確なアクセスが可能になり、輸血検査の迅速性向上と患者の安全性確保が期待される。特に、周産期における母児間、または、臓器移植におけるドナー/レシピエントの情報連携において重要性が高い機能である。

### アンケートの方法:

2023年7月12日から8月18日までの期間に、全国大学病院輸血部会議技師研究会の参加施設(104施設)を対象に実施した。

アンケート内容は、施設情報に関する設問、患者リンク機能に関する設問、意識調査を実施した。施設情報に関する設問では、病床数、産科および新生児科の有無、臓器移植の実施有無について調査した。患者リンク機能に関する設問では、輸血部門システムおよび病院情報システムでの搭載状況と必要性、搭載施設での活用場面についての情報を収集した。また、意識調査として、「母児の紐付けによる移行抗体情報の共有」と「移植におけるドナー/レシピエント情報の紐付け」についても回答を得た。

### アンケート結果:

63施設から回答を得られた。患者リンク機能の搭載状況に関しては、部門システムでは搭載している施設が9(14.3%)、搭載していない施設が51(80.9%)、不明な施設が3(4.8%)であった。一方、病院情報システムでは、搭載している施設が29(46.0%)、搭載していない施設が26(41.3%)、不明な施設が8(12.7%)であった。患者リンク機能の必要性については、部門システムにおいては必要:27(43%)、やや必要:23(37%)、どちらでもよい:8(13%)、やや不必要:1(2%)、不必要:4(6%)であった。一方、病院情報システムにおいては必要:29(46%)、やや必要:24(38%)、どちらでもよい:5(8%)、やや不必要:2(3%)、不必要:3(5%)であった。意識調査では、患者リンク機能によって得られる安全性や効率性のメリットに関する意見が多かった。一方で紐付けを正確に実施する為の運用方法や個人情報の取り扱いに懸念があるなど、慎重な意見もみられた。

### まとめ:

患者リンク機能の搭載率は低いものの、必要性に関しては高い需要が明確となった。特に、母児や移植情報の紐付けに関して、多くの施設がその重要性を認識している。しかし、個人情報の取り扱いや運用に関する課題も浮き彫りとなった。患者リンク機能の普及によって輸血療法の安全性と効率性を向上させる可能性があるが、さらなる議論が必要である。

## 施設紹介

東京医科歯科大学病院 輸血・細胞治療センター

相川 佳子

東京医科歯科大学 輸血・細胞治療センター業務について紹介する。当センターは教員（医師）、臨床検査技師、技術職員、事務員で構成され、輸血細胞治療業務、再医療等製品を取り扱っている

安全・適正な血液製剤管理と供給、血液製剤の調製（同種クリオプレシピテート作成術、自己生体接着剤作成術、血小板洗浄術、分割製剤）、全自動輸血検査装置をもちいた輸血関連検査を行っている。時間外輸血業務は2004年より検査部と合同の2名体制で緊急検査と輸血業務を行っていたが、2023年5月より所属の専任技師による24時間体制に変更した。これにより救急科のMTP（Massive Transfusion Protocol）を含めた緊急輸血や産科危機的出血への迅速な対応ができるようになったことに加え、臨床からの要望の高かった「同種クリオプレシピテート」や「分割製剤」の時間外供給が可能となった。

造血幹細胞移植関連業務では、成分採血装置の操作、採取細胞の処理、凍結保存、FCMを用いた細胞数評価、細胞入出庫、保管管理のすべての工程に臨床検査技師が従事している。採取細胞の処理工程は、センター内にある細胞加工施設CPC内の清浄度の確保された調整室で作業を行っている。

再生医療等製品関連業務では「キムリア※」のリンパ球採取、細胞処理、製品管理、「テムセル※」の調製、「ハートシート※」の細胞培養用血清分離・シート調整に臨床検査技師が携わっている（本年度中に「イエスカルタ※」の取り扱いを開始予定）。その他、変形性膝関節症や疼痛緩和療法として多血小板血症（PRP）からの自己タンパク質溶液（APS）の調整や再生医療領域の医師主導治験にも技術的な協力を行っている。

2023年10月1日、救命救急センターにハイブリッドERシステムの手術室を導入、ICU、HCUを高機能に集約し、災害時にも高度な医療を提供し続けることのできる「機能強化棟」が稼働した。緊急輸血が必要な症例増加が見込まれるため、血液製剤の迅速な供給を強化するとともに、法改正で臨床検査技師も可能となった末梢血管確保、POCT機器を用いた検査の実施など救命救急センターにおける多職種連携にも積極的に関与したい。また今後細胞治療業務や多種にわたる再生医療等製品を取り扱うにあたり、各製品の特徴・工程を理解し安全で質の高い培養・細胞調整をおこなえる細胞治療管理師や臨床培養士の育成にも注力したい。

※登録商標

## トロンボエラストグラフアナライザーTEG6s 製品特徴について

ヘモネティクスジャパン合同会社  
HP 事業本部 ナショナルマネージャー  
横田 拓也

血液粘弾性試験装置TEG® 6sは、迅速かつ包括的に血液凝固能を評価することができる装置です。

心臓血管麻酔における血液粘弾性検査の使用指針、大量出血症例に対する血液製剤の適正な使用のガイドライン等においても推奨されております。

複数の試薬が入ったカートリッジを使用する事により、試薬の分注などの複雑な準備を行うことなく、簡単な操作で様々な試験結果を同時に、且つ速やかに提供することができます。試験結果はトロンボエラストグラフという特徴的な波形と、複数の凝固能を示すパラメータにより示され、血液凝固の様々な要素を直感的かつ迅速に評価することができます。

装置は小型で、検査室でもポイントオブケアとしても利用可能です。また、専用ソフトウェアであるTEG managerを利用してネットワーク化する事で、TEG装置による試験情報を電子カルテ端末などを通じて必要な場所でリアルタイムに見ることができます。

使用するカートリッジには2種類あり、目的に応じて使い分けることができます。

グローバルヘモスタシス：凝固因子、ヘパリンによる凝固時間の延長やフィブリノーゲン、血小板の機能などを評価

プレートレットマッピング：ADP、アラキドン酸を活性化剤として使用し、レセプター特異的な血小板の機能の評価

血液粘弾性試験は世界で年々その使用が拡大しており、本邦においても心臓血管外科を中心に、外傷、移植、産科などの大量出血リスクのある症例にも広まりつつあります。

本講演では、TEG6sの特徴や、試験結果の見方、活用の仕方についてご紹介させていただきます。

## ROTEM シグマ 血液凝固分析装置 ～輸血部がリードする PBM の可能性～

アイ・エル・ジャパン株式会社  
PBM クリニカルスペシャリスト  
横山 みどり

Patient Blood Management（患者血液管理）：（以下PBM）は、患者の貧血補正と失血を最小限に抑え、るとともに、輸血の適正使用によって患者転帰を向上させることを目的としたエビデンスに基づく患者中心の医療概念であり、血液製剤にとどまらず医療費の削減につながる事が立証されている<sup>1)</sup>。2010年世界保健総会にて提唱され、WHO加盟国はこの概念をタイムリーに実施するよう求められた。さらに2021年には、新たにPBMの実践が急務であることをまとめたポリシーブリーフが発行されている<sup>2)</sup>。ROTEMガイドによるPBMの実践には、エビデンスベース、且つ医療機関ごとの患者集団と輸血の運用などに適した固有のアルゴリズムやプロトコルの設定が欠かせない。フィブリン重合能の把握と輸血判断においては、FIBTEMの輸血トリガーとなる値、あるいはターゲットとなる値を設定しなければ、ROTEMが示す結果を介入に活かすことはできない。

ROTEMガイドによるアルゴリズムは、「Theragnostic approach（治療と診断の融合したアプローチ）」と「Therapeutic window（治療ウィンドウ）」、つまり“すべきではないこと”を明らかにし、止血を可能にする介入と血栓塞栓症の回避に基づいている<sup>3)</sup>。一方でROTEMは他の検査機器と同様に、診断を完全に委ねることは不可能であり、術野の状況や患者背景、術式や人工心肺の時間などを踏まえ総合的に治療方針の決定をする必要がある。従って、ROTEMの結果を解釈する役割は必ずしも医師である必要はなく、輸血管理を担う検査部門がROTEMの結果が示す必要な輸血と量を提案し、それを踏まえて医師が臨床状況と合わせた総合的な判断をするというフローは、輸血の適正使用を実現する理想の形と言える。この構想は、院内においてひとつの粘弾性検査を複数の診療科や医師が活用することを可能にし、導入コストを抑えるとともに、患者のアウトカム、輸血や医療費削減といった施設全体でのPBMの実現にも有効であると考えられる。

### 【参考文献】

1. Leahy M, et al. Improved outcomes and reduced costs associated with a health-system-wide patient blood management program: a retrospective observational study in four major adult tertiary-care hospitals. *Transfusion*. 2017;57(6):1347-58. By [European Commission Guide on PBM]
2. The urgent need to implement patient blood management: policy brief: World Health Organization <https://www.who.int/publications/i/item/9789240035744>
3. Klaus Görlinger, et al. The role of evidence-based algorithms for rotational thromboelastometry-guided bleeding management. *Korean Journal of Anesthesiology* 2019;72(4):297-322.

## Quantra®血液粘弾性分析装置のご紹介

平和物産株式会社 マーケティング部  
室伏 和博

人工心肺を伴う心臓手術や外傷、産科大量出血などの大量出血症例において、止血管理は言うまでもなく避けては通れない命題です。これらの症例においては、凝固因子活性の低下、血小板数および機能の低下、線溶制御の亢進、フィブリノゲンの減少などの様々な凝固障害に直面します。刻々と変化する凝固動態をモニタリングする目的でPT-INRやAPTT、ACT測定などの血液凝固検査が広く実施されていますが、それらだけで血液凝固動態を網羅的に把握することは困難であるシチュエーションにも多々遭遇します。

近年、新たな血液凝固検査のひとつとして血液粘弾性検査（Viscoelastic Blood Testing：VET）が注目されるようになりました。この血液粘弾性検査を組み込んだ止血アルゴリズムを導入することによって、心臓手術における臨床転帰の改善や輸血量の削減などの効果があることが欧米を中心に既に報告されています。欧州麻酔科学会（ESA）や米国麻酔科学会（ASA）から血液粘弾性検査に関するガイドラインが発出され、本邦においても、2019年1月に発出された「大量出血症例に対する血液製剤の適正な使用のガイドライン」の中で、従来のフィブリノゲン値の測定などに加えて血液粘弾性検査を実施することが推奨されています。

Quantra®血液粘弾性分析装置は、凝固時間や血餅強度などのパラメータを迅速に測定することができるポイントオブケア装置です。測定結果はダイヤルと数値によってスクリーンに表示されます。測定操作面においてもピペッティングによる分注などの煩雑な操作が不要であるため、より臨床現場で使いやすく、誰にでも解釈しやすいのが大きな特長となっています。様々な職種のスタッフが緊密に連携する必要性がより高まっている今日の医療現場において、Quantra血液粘弾性分析装置の特長である「分かりやすさ」は、止血戦略の共通言語として使いやすいという大きなメリットをもつと期待されています。

本講演では、Quantra血液粘弾性分析装置で測定することができるパラメータや、実臨床においてどのように活用するかを中心にお話しさせていただきます。



# 全国大学病院輸血技師研究会 役員名簿

(2022-2023 年度)

役職	氏名	所属
代表	大友 直樹	東京医科歯科大学
副代表	川畑 絹代	福島県立医科大学
副代表	岸野 光司	自治医科大学
庶務	福吉 葉子	熊本大学
会計	名倉 豊	東京大学
渉外	池本 純子	兵庫医科大学
渉外	名倉 豊	東京大学
アンケート担当	松浦 秀哲	藤田医科大学
私立大学担当	嘉成 孝志	東京医科大学
<ブロック代表>		
北海道東北ブロック	村井 良精	札幌医科大学
北関東信越ブロック	小嶋 俊介	信州大学
南関東山梨ブロック	杉本 達哉	東海大学
東京ブロック	鳥海 綾子	慶應義塾大学
東海北陸ブロック	海老田ゆみえ	福井大学
近畿ブロック	万木 紀美子	京都大学
中国四国ブロック	土居 靖和	愛媛大学
九州ブロック	福吉 葉子	熊本大学
2023 年度当番校	山田 麻里江	佐賀大学
(相談役)	山田 尚友	佐賀大学
(相談役)	友田 豊	旭川医科大学

2022.10.27

# 全国大学病院輸血技師研究会 役員名簿

(2024 年度)

役職	氏名	所属
代表	大友 直樹	東京医科歯科大学
副代表(渉外)	名倉 豊	東京大学
副代表(学術)	松浦 秀哲	藤田医科大学
庶務	福吉 葉子	熊本大学
渉外	池本 純子	兵庫医科大学
アンケート担当	村井 良精	札幌医科大学
私立大学担当	嘉成 孝志	東京医科大学
(会計)	名倉 豊	東京大学)
＜ブロック代表＞		
北海道東北ブロック	奈良崎 正俊	山形大学
北関東信越ブロック	小嶋 俊介	信州大学
南関東山梨ブロック	杉本 達哉	東海大学
東京ブロック	鳥海 綾子	慶應義塾大学
東海北陸ブロック	海老田ゆみえ	福井大学
近畿ブロック	清川 知子	大阪大学
中国四国ブロック	土居 靖和	愛媛大学
九州ブロック	福吉 葉子	熊本大学
2024 年度当番校	棚澤 敬志	埼玉医科大学 国際医療センター
(相談役)	山田 尚友	佐賀大学

2023.10.25

# 全国大学病院輸血技師研究会 ブロック別施設一覧

2023年10月25日 現在

<p><b>北海道・東北ブロック</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 北海道大学病院</li> <li>2 旭川医科大学病院</li> <li>3 弘前大学医学部附属病院</li> <li>4 東北大学病院</li> <li>5 秋田大学医学部附属病院</li> <li>6 <b>山形大学医学部附属病院</b></li> <li>7 札幌医科大学附属病院</li> <li>8 福島県立医科大学附属病院</li> <li>9 岩手医科大学附属病院</li> <li>10 東北医科薬科大学病院</li> <li>11 福島県立医科大学会津医療センター</li> </ol>	<p><b>北関東信越ブロック</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 筑波大学附属病院</li> <li>2 群馬大学医学部附属病院</li> <li>3 新潟大学医歯学総合病院</li> <li>4 <b>信州大学医学部附属病院</b></li> <li>5 防衛医科大学校病院</li> <li>6 自治医科大学附属病院</li> <li>7 自治医科大学附属さいたま医療センター</li> <li>8 獨協医科大学病院</li> <li>9 埼玉医科大学病院</li> <li>10 埼玉医科大学総合医療センター</li> <li>11 埼玉医科大学国際医療センター</li> <li>12 東京医科大学茨城医療センター</li> <li>13 獨協医科大学埼玉医療センター</li> </ol>	<p><b>南関東山梨ブロック</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 千葉大学医学部附属病院</li> <li>2 山梨大学医学部附属病院</li> <li>3 横浜市立大学附属病院</li> <li>4 北里大学病院</li> <li>5 昭和大学藤が丘病院</li> <li>6 帝京大学ちば総合医療センター</li> <li>7 <b>東海大学医学部附属病院</b></li> <li>8 東京女子医科大学八千代医療センター</li> <li>9 聖マリアンナ医科大学病院</li> <li>10 横浜市立大学附属市民総合医療センター</li> <li>11 東京慈恵会医科大学附属柏病院</li> <li>12 東邦大学医療センター佐倉病院</li> <li>13 順天堂大学医学部附属浦安病院</li> <li>14 昭和大学横浜市北部病院</li> <li>15 帝京大学医学部附属溝口病院</li> <li>16 聖マリアンナ医科大学東横病院</li> </ol>
<p><b>東京ブロック</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 東京大学医学部附属病院</li> <li>2 東京大学医科学研究所附属病院</li> <li>3 東京医科歯科大学病院</li> <li>4 杏林大学医学部附属病院</li> <li>5 <b>慶應義塾大学病院</b></li> <li>6 順天堂大学医学部附属順天堂医院</li> <li>7 昭和大学病院</li> <li>8 帝京大学医学部附属病院</li> <li>9 東京医科大学病院</li> <li>10 東京医科大学八王子医療センター</li> <li>11 東京慈恵会医科大学附属病院</li> <li>12 東京女子医科大学病院</li> <li>13 東邦大学医療センター大森病院</li> <li>14 東邦大学医療センター大橋病院</li> <li>15 日本医科大学付属病院</li> <li>16 日本大学医学部附属板橋病院</li> <li>17 順天堂大学医学部附属練馬病院</li> <li>18 東海大学医学部附属八王子病院</li> </ol>	<p><b>東海・北陸ブロック</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 金沢大学附属病院</li> <li>2 岐阜大学医学部附属病院</li> <li>3 名古屋大学医学部附属病院</li> <li>4 三重大学医学部附属病院</li> <li>5 浜松医科大学医学部附属病院</li> <li>6 富山大学附属病院</li> <li>7 <b>福井大学医学部附属病院</b></li> <li>8 名古屋市立大学病院</li> <li>9 金沢医科大学病院</li> <li>10 愛知医科大学病院</li> <li>11 藤田医科大学病院</li> <li>12 順天堂大学医学部附属静岡病院</li> </ol>	<p><b>近畿ブロック</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 京都大学医学部附属病院</li> <li>2 <b>大阪大学医学部附属病院</b></li> <li>3 神戸大学医学部附属病院</li> <li>4 滋賀医科大学医学部附属病院</li> <li>5 京都府立医科大学附属病院</li> <li>6 大阪公立大学医学部附属病院</li> <li>7 奈良県立医科大学附属病院</li> <li>8 和歌山県立医科大学附属病院</li> <li>9 大阪医科薬科大学病院</li> <li>10 関西医科大学附属病院</li> <li>11 関西医科大学総合医療センター</li> <li>12 近畿大学病院</li> <li>13 兵庫医科大学病院</li> </ol>
<p><b>中国四国ブロック</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 鳥取大学医学部附属病院</li> <li>2 岡山大学病院</li> <li>3 広島大学病院</li> <li>4 山口大学医学部附属病院</li> <li>5 徳島大学病院</li> <li>6 <b>愛媛大学医学部附属病院</b></li> <li>7 島根大学医学部附属病院</li> <li>8 高知大学医学部附属病院</li> <li>9 香川大学医学部附属病院</li> <li>10 川崎医科大学附属病院</li> </ol>	<p><b>九州ブロック</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 九州大学病院</li> <li>2 長崎大学病院</li> <li>3 <b>熊本大学病院</b></li> <li>4 鹿児島大学病院</li> <li>5 琉球大学病院</li> <li>6 宮崎大学医学部附属病院</li> <li>7 佐賀大学医学部附属病院</li> <li>8 大分大学医学部附属病院</li> <li>9 久留米大学病院</li> <li>10 福岡大学病院</li> <li>11 産業医科大学病院</li> </ol>	

**太字下線**：ブロック代表の在籍施設

## 全国大学病院輸血技師研究会メーリングリスト登録（申込・削除）申請書

提出日：（西暦） クリックまたはタップして日付を入力してください。

### 全国大学病院輸血技師研究会代表 殿

<b>申請内容</b>	<input type="checkbox"/> 登録申込 <input type="checkbox"/> 登録削除	
<b>登録年度</b>	（西暦） _____ 年度	本会の会計年度は4月1日から翌年3月31日までです。 登録削除の場合は年度の記載は不要です。
<b>氏名</b>	（ふりがな）	
<b>日本輸血・細胞治療学会 会員番号</b>	<input type="checkbox"/> 非会員	
<b>勤務先施設名</b>	<input type="checkbox"/> 会員情報利用	
<b>所属部署名</b>	<input type="checkbox"/> 会員情報利用	
<b>勤務先住所</b>	<input type="checkbox"/> 会員情報利用 〒            — TEL：            —            —            （内線            ） FAX：            —            —	
<b>E-mail アドレス</b>	<input type="checkbox"/> 会員情報利用	

非会員は以下もご記入ください。

<b>職種</b>	<input type="checkbox"/> 臨床検査技師 <input type="checkbox"/> 衛生検査技師
-----------	-----------------------------------------------------------------

該当する項目を選択して□に✓でご記入ください。

### 【申請要項】

《提出・問い合わせ先》 全国大学病院輸血部会議 本部事務局  
 〒113-0033 東京都文京区本郷2-14-14 ユニテビル5階  
 （日本輸血・細胞治療学会事務局内）  
 TEL: 03-5804-2611  
 FAX: 03-5804-2612  
 E-mail: info@mail.jstmct.or.jp

《提出方法》 E-mail・FAX（電話での申請は受理できません）

2023年度 全国大学病院輸血技師研究会 出席者名簿

施設名	出席者 (太字: 現地参加者) (医: 医師・(看: 看護師)			
北海道大学病院	伊藤 誠			
旭川医科大学病院	佐渡 正敏	大塚 浩平		
弘前大学医学部附属病院	金子 なつき			
東北大学病院	関 修			
秋田大学医学部附属病院	佐藤 郁恵	奈良 美保(医		
山形大学医学部附属病院	奈良崎 正俊	石山 裕子		
筑波大学附属病院	新井 裕介	錦井 秀和(医		
群馬大学医学部附属病院	丸橋 隆行			
千葉大学医学部附属病院	長谷川 浩子			
東京大学医学部附属病院	名倉 豊			
東京大学医科学研究所附属病院	尾上 和夫	高橋 敦子	長村 登紀子(医	
東京医科歯科大学病院	大友 直樹	相川 佳子		
新潟大学医歯学総合病院	上村 正巳			
金沢大学附属病院	佐藤 英洋			
山梨大学医学部附属病院	中嶋 ゆう子			
信州大学医学部附属病院	小嶋 俊介			
岐阜大学医学部附属病院	浅野 栄太			
名古屋大学医学部附属病院	渡邊 友美	加藤 千秋		
三重大学医学部附属病院	田中 由美			
京都大学医学部附属病院	丹羽 紀実			
大阪大学医学部附属病院	清川 知子			
神戸大学医学部附属病院	早川 郁代			
鳥取大学医学部附属病院	畑山 祐輝	河村 浩二(医		
岡山大学病院	浅野 尚美			
広島大学病院	野間 慎尋			
山口大学医学部附属病院	渡邊 理香			
徳島大学病院	瀧本 朋美			
愛媛大学医学部附属病院	土居 靖和	秋田 誠		
九州大学病院	藤野 恵子			
長崎大学病院	古賀 嘉人	中村 浩哉		
熊本大学病院	福吉 葉子			
鹿児島大学病院	笠畑 滯			
琉球大学病院	石垣 永夢歌			
浜松医科大学医学部附属病院	石塚 恵子			
滋賀医科大学医学部附属病院	内林 佐知子			
宮崎大学医学部附属病院	黒木 沙央里			
富山大学附属病院	梅野 詳子			
島根大学医学部附属病院	石原 智子			
高知大学医学部附属病院	徳弘 慎治	藤原 晴美		
佐賀大学医学部附属病院	山田 麻里江	山田 尚友	末岡 榮三朗(医	
大分大学医学部附属病院	古賀 紳也	赤坂 理恵子		
福井大学医学部附属病院	海老田 ゆみえ	山内 高弘(医		
香川大学医学部附属病院	田中 幸栄	内田 俊平(医		
防衛医科大学校病院	尾形 洋輔	木村 文彦(医		
札幌医科大学附属病院	村井 良精			
福島県立医科大学附属病院	川畑 絹代	高野 希美	皆川 敬治	
横浜市立大学附属病院	原田 佐保	黒沢 英里	瀧澤 かすみ	
名古屋市立大学病院	南里 隆憲	李 政樹(医		
京都府立医科大学附属病院	井上 寛之			
大阪公立大学医学部附属病院	藤野 恵三			
奈良県立医科大学附属病院	長谷川 真弓			

施設名	出席者 (太字：現地参加者) (医：医師・(看：看護師)			
和歌山県立医科大学附属病院	堀端 容子			
岩手医科大学附属病院	佐々木 哲也	高館 潤子		
自治医科大学附属病院	岸野 光司	大槻 郁子		
自治医科大学附属さいたま医療センター	武関 雄二	清水 咲子		
獨協医科大学病院	篠原 茂	山川 朋世		
埼玉医科大学病院	山田 攻			
埼玉医科大学総合医療センター	野呂 光恵			
埼玉医科大学国際医療センター	棚澤 敬志	松本 慎二	前田 麻衣	
北里大学病院	岩切 文子	中野 さくら		
杏林大学医学部附属病院	牧野 博			
慶應義塾大学病院	鳥海 綾子	五十嵐 靖浩		
順天堂大学医学部附属順天堂医院	降田 喜昭	中村 裕樹		
昭和大学病院	中村 揚介	斉藤 美佑貴		
昭和大学藤が丘病院	玉置 潤	小山 彩子		
帝京大学医学部附属病院	前島 理恵子	永友 ひとみ	藤原 孝記	
帝京大学ちば総合医療センター	山本 喜則			
東海大学医学部附属病院	杉本 達哉	今泉 満明	豊崎 誠子(医	
東京医科大学病院	市川 喜美子	新井 幸子		
東京医科大学八王子医療センター	嘉成 孝志			
東京慈恵会医科大学附属病院	古川 悠太			
東京女子医科大学病院	及川 美幸			
東京女子医科大学八千代医療センター	杉野 智広			
東邦大学医療センター大森病院	藤原 ゆり	奥田 誠	齋藤 光平	
東邦大学医療センター大橋病院	加藤 禎			
東京医科大学茨城医療センター	下野 真義			
日本医科大学付属病院	宮原 一真			
聖マリアンナ医科大学病院	佐藤 千晶	栗原 奈美枝	大島 久美(医	
金沢医科大学病院	山口 大介			
愛知医科大学病院	片井 明子			
藤田医科大学病院	松浦 秀哲	荒川 章子		
大阪医科薬科大学病院	平松 潔子	南 有美子		
関西医科大学附属病院	山岡 学	阿部 操		
関西医科大学総合医療センター	吉川 美代子			
近畿大学病院	前田 岳宏			
兵庫医科大学病院	池本 純子	大塚 真哉		
川崎医科大学附属病院	仲井 富久江	文屋 涼子		
久留米大学病院	藤好 麻衣			
福岡大学病院	嶋田 裕史			
産業医科大学病院	坂西 陽子			
日本大学医学部附属板橋病院	並木 浩信	檀野 裕子		
順天堂大学医学部附属練馬病院	市川 佳世子			
順天堂大学医学部附属静岡病院	猪口 明実			
横浜市立大学附属市民総合医療センター	深川 良子			
東京慈恵会医科大学附属柏病院	長谷川 智子	市井 直美		
東邦大学医療センター佐倉病院	蓮沼 秀和			
順天堂大学医学部附属浦安病院	大澤 俊也			
東北医科薬科大学病院	齊藤 梨絵			
昭和大学横浜市北部病院	佐々木 かよ子	菅野 光一		
福島県立医科大学会津医療センター	渡部 和也			
東海大学医学部附属八王子病院	小山 暁史			
帝京大学医学部附属溝口病院	鈴木 佑理	菊池 恵仁		
獨協医科大学埼玉医療センター	鳥山 満			
聖マリアンナ医科大学東横病院	山崎 郁子			

## 平成13年（2001年度）以降 当番校リスト

回	開催年度	開催日	担当校
11	平成13年度	2001年9月28日	秋田大学
12	平成14年度	2002年11月22日	筑波大学
13	平成15年度	2003年11月21日	高知大学
14	平成16年度	2004年10月18日	琉球大学
15	平成17年度	2005年10月20日	福井大学
16	平成18年度	2006年10月2日	北海道大学、旭川大学
17	平成19年度	2007年10月4日	香川大学
18	平成20年度	2008年10月2日	大阪大学
19	平成21年度	2009年11月14日	浜松医科大学
20	平成22年度	2010年9月21日	熊本大学
21	平成23年度	2011年10月20日	自治医科大学
22	平成24年度	2012年11月15日	川崎医科大学
23	平成25年度	2013年10月20日	北海道大学
24	平成26年度	2014年10月17日	広島大学
25	平成27年度	2015年10月22日	信州大学
26	平成28年度	2016年10月6日	富山大学
27	平成29年度	2017年10月11日	大分大学
28	平成30年度	2018年10月18日	弘前大学
29	2019年度	2019年11月14日	東京女子医科大学
30	2020年度	2020年10月22日	三重大学
31	2021年度	2021年10月7日	名古屋大学
32	2022年度	2022年10月27日	東京大学医科学研究所
33	2023年度	2023年10月25日	佐賀大学

MEMO